

調 査 研 究 彙 報

建 造 物 研 究 室

松井家住宅の移築に伴う調査 県立大和民俗博物館に移建する奈良県宇陀郡室生村上笠間所在の松井家住宅の解体調査である。この住宅は、平面が桁行に喰い違う四間取で、前座敷型三間取の発展形と推定される好例で、棟札から文政13年の建設とわかり、よく当初の形態をとどめる遺構である。
(吉田・宮本・亀井・清水)

熊本県中・北部における近世初期の分棟型民家 近世初期の記録『肥後人畜改帳』記載の民家約9000棟について、建物の種類、規模、構造、平面などを分析した結果、当時分棟型民家が上層農家の主流であり次第に一般階層へ普及していったことが推測された。
(吉田)

奈良県・奈良市文化財指定候補の調査 県指定候補として天理市森嶋家住宅を調査。当家は
大庄屋で、広い屋敷地内には水濠も残る。主屋は大和棟で19世紀初頃建てられたらしい。表
門、離座敷も同時に指定された。嶋田神社本殿、鏡神社本殿は春日大社本殿を移したもので、
それぞれ享保、延享の造替に際し譲渡されたとみられる。これらも市指定をみた。(吉田)

蔡泳權氏研修 氏は大韓民国文化財管理局文化財補修課の建築技士で1981年11月より1年間の
予定でわが国の文化財建造物の修理、都城の調査、研究のため来日され、当研究所で受入れ
たものである。
(吉田)

燈明寺本堂の発掘調査 京都府相楽郡加茂町所在の重要文化財燈明寺本堂(室町前期)移築工
事に伴い、発掘調査指導を行なった。礎石には焼痕が残り、現本堂(桁行5間・梁行6間)は旧礎
石を一部踏襲して再建されたもので、現基壇の前方1間分はこの時の拡張になる。拡張部の焼
土中には鎌倉末から室町初期の遺物を含み、焼失直後に再建されたことが判る。また、現向拝
(江戸時代)の前方約0.3mの位置に根石を検出し、再建当初の向拝の存在とその柱位置を確認
した。
(清水)

西明寺本堂の調査 滋賀県犬上郡甲良町所在。当本堂(鎌倉時代)は建立当初、方5間の堂で
あったが、後に方7間に改められている。現小屋内には旧小屋組の一部が残り、これが5間堂
時代のものか、あるいは7間堂への拡張当初のものか否かについて疑義がだされていた。滋賀
県教育委員会が委託を受けて半解体修理を行なっているので、それを機会に旧小屋組および現
小屋組への転用古材の調査を行ない、5間堂時代の小屋組の復原試案を得たが、細部について
はなお検討の余地があり再調査を期している。
(清水・山岸)

太山寺経蔵の修理指導 神戸市が推進している文化環境保存地区内歴史的建造物保存修理の
一つで、半解体にとどまる維持工事ではあったが、床組・軒廻り・入口廂・窓など後に改変さ
れた部分の復原をも試み、広い境内にその存在を主張する建物の一つとなった。(細見)

弘前城三の丸庭園環境整備 弘前市の依頼により庭園修復前の滝石組写真測量と、庭園の基
本設計を行なった。8月
(木全・伊東・田中・光谷)

下野薬師寺環境整備 南河内町の依頼により下野薬師寺跡整備の基本構想図を作成した。

8月, 12月

(田中・本中)

毛越寺跡庭園遺跡調査 平泉町の依頼により行っている継続調査で, 今年度は北東の汀線, 東門の遺構検出の指導を行なった。3月

(加藤・本中)

平城ニュータウン遺跡の環境整備 日本住宅公団の依頼により, 石のカラト古墳, 音如谷, 歌姫瓦窯の環境整備の基本設計の指導を行なった。12月

(田中・本中)

整備担当者会議 今年度は7回目で広島県三次市で開催され, 環境整備のかかえる諸問題, 三次市の文化財の環境整備について活発に討議が行われた。12月

(田中・光谷)

歴史研究室

東大寺文書調査 文化庁の委嘱による東大寺未成巻文書の調査で, 1974年度からの継続。未成巻文書第3部第10第151号から第10部まで, および薬師院文書, 宝庫文書の調書を作成した。また図書館架蔵の卷子本目録, 記録部目録収載の文書も『東大寺文書目録』に収録することとしたので, その一部についての調書を作成した。また写真撮影については卷子本目録まで終了した。前年度に引き続いて『東大寺文書目録第3巻』(第3部第10から第6部まで所収)を刊行した。

興福寺典籍古文書調査 従来からの継続調査で, 第63函から第76函まで調査を行なった。そのうち第69函から第75函までは「古徳倫草」と題されたもので, 多数の聖教類が未整理のまま収納されている。平安後期から室町後期までのもので, 紙背文書も相当数みとめられる。その一端は本年報に紹介した。4月及び9月。

薬師寺典籍古文書調査 東京大学史料編さん所との第2回共同調査。第9函以降の調書作成と, 第3函～第8函までの写真撮影を行なった。7月。

西大寺典籍古文書調査 継続調査。第78函より第83函まで調書作成。3月。

その他の調査 醍醐寺 8月。石山寺 7月及び12月。島津家文書 1月。

平城宮跡発掘調査部

神野向(かのむかい)遺跡の調査 茨城県鹿島町所在。鹿島郡衙推定地の調査である。3カ年計画の初年度にあたり, 約1000 m²を調査した。政庁域はつかめなかったが, 礎石建の倉庫群と掘立柱建物, 塀, 南辺を画する大溝を検出した。時期は8・9世紀に属し, 大きく3時期の変遷が明らかとなった。

(森・毛別光・安田・中村・佃)

寺本廃寺の調査 山梨県東山梨郡春日居町所在。2月1日から3月8日まで第2次調査を行なった。その間, 2度にわたって調査指導を行ない, 南門と中門の基壇及び兩者をつなぐ参道を検出した。講堂・僧坊などの遺構については今後の課題として残された

(森・清水)

埋蔵文化財センター

森將軍塚古墳 採石場に囲まれ辛うじて尾根上に残る全長 98 m の前方後円墳の整備事業である。56年度は予備調査で墳丘の裾回りに多くの石棺を検出している。予定では57年度の前方部、58年度の後円部の発掘調査以後墳丘復原整備が続く。五色塚古墳以来久しぶりの本格的な復原整備事業である。発掘調査・整備の両面で指導を行なっている。(安原・木下・立木)

松本城二の丸跡 発掘調査の最終年度を迎え、実測、補足調査も終了し、建物遺構が古図によく合致することが判明した。部屋割まで表現するという従来にない基本計画のもとに58年以降整備事業が進む。発掘調査・実測・整備の指導を行なった。(安原・宮本・光谷・内田)

今帰仁城跡 沖縄県北部に位置するこの城跡の史跡環境整備事業に伴い、城壁石垣の写真測量調査を行なった。石垣上部が崩壊し基底部に積重なっているものを取除き、あるいは土砂で埋まった部分を掘り出しての現状記録作業である。発掘調査によって検出した城内通路の石敷・石段の平面図作成用垂直撮影も合わせて行なった。(木全・伊東・西村・松本)

周山瓦窯 京都大学文学部考古学研究室の依頼により、京都府北桑田郡京北町大字周山にある7世紀末から8世紀にかけての瓦陶兼業窯の磁気探査を、全面的に援助した。探査面積約 1,100 m² で、4カ所に窯体を推定。内3カ所は発掘により窯体の存在を確認したが、他の1カ所は未掘。7月。(京都大学文学部考古学教室『丹波周山瓦窯』1982)(木全・西村)

隼上り遺跡 京都府宇治市菟道にある飛鳥時代瓦陶兼業窯で、瓦は奈良県明日香村の豊浦寺のものと同範。市教委の依頼により、発掘に先だって窯体の位置確認のための磁気探査を援助。3カ所に窯体を推定し、内2カ所で発掘により窯体の存在を確認。なお、探査範囲外でも1基の窯が発掘により確認されている。1月(西村・光谷)

神出古窯跡群 兵庫県神戸市垂水区神出にある平安時代須恵器窯跡を、市教委が圃場整備事業に先だって位置確認調査を計画し、その一環として磁気探査をしたもので、当センターが現地において探査指導した。探査総面積約 22,800 m²、約2週間を要して探査し多数の窯体を推定した。2月(西村)

天神原窯跡 鳥取県八頭郡河原町にある飛鳥時代の天神原須恵器窯跡の磁気探査を、県教委の依頼により援助した。探査面積約 800 m²、1カ所に窯体の存在を推定。11月(木全・西村)

伊予国府跡 片山才氏によって国衙域の中心部と推定された地区の調査であるが、奈良時代の国府関連建物を検出することはできず、鎌倉時代を中心とする小形の掘立柱建物を検出した。11～12月。(愛媛県教育委員会『伊予国府跡確認調査概報(Ⅰ)』1982)(山崎)